

しぐれきしやういしきはいかいこうぎやう
時雨忌正式俳諧興行

2023.10.18

ねこみのかい
連句結社猫蓑会主催・深川芭蕉記念館にて

猫蓑会では、毎年芭蕉忌(時雨忌)に、三百年以上続く俳諧の連歌(連句)をお供えする儀式を、古式にのっとり行っています。



上座には宗匠(総監督)、脇宗匠(監督補助)、執筆(進行・書記)が座ります。

はいけん
配硯(宗匠・脇宗匠・来賓が使う筆と硯を配るお役)

下座には、花司(献花役)、知司(司会)、香元(お香を焚く人)が控えます。



興行の主役は執筆。記録セット(懐紙・筆・硯など)を載せた文台をもち下座から上座へ。文台捌き(句を懐紙に記録する態勢を整えるパフォーマンス)を行います。何か月もお稽古をします。



すずり
配硯が硯を運び、花司が花を活けます。



連衆は付句(自分の句)を短冊に書いて執筆に提出



宗匠は花の句を詠む前に、お香を芭蕉像に捧げ、敬意を表し良い句を詠む決意表明

完成した連句を書いた懐紙を紅白の水引で綴じて芭蕉像に捧げます。



厳粛な儀式の後は、和気あいあいと飲み食いしながら座(グループ)に分かれて改めて連句を巻きます。

